

平成27年度やまと市民討議会（第2回） 開催結果

- 1 日時 平成27年11月14日（土） 10:00～16:30（本庁舎地下1階食堂）
- 2 テーマ 「大和市に住みたいと思う人を増やすアイデア」について
- 3 参加者 44名 （内訳） 一般市民 33名（男性21名、女性12名）
高校生 11名（男性 3名、女性 8名）
※無作為に抽出した3,000人に案内を送付
- 4 討議結果

（1）午前の討議内容

「住みたいまちの条件を出し合おう」、「例えば10年後、次のライフステージに進んだ時にどんなまちに住みたいかを語り合おう」をテーマに討議を行いました。主な意見は次のとおりです。

【住みたいまちの条件】

【全世代】

- ・自然が豊か、きれいな景観
- ・安全（治安が良い）、防災
- ・静か（騒音がない）
- ・経済的に住みやすい
- ・文化、芸術、知名度が高い
- ・活気がある

など

【若い世代】

- ・遊べる場所がある
- ・仕事がある
- ・こどもを預けられる など

【シニア世代】

- ・高齢者同士の交流できる
- ・世代間交流もできる
- ・移動しやすい（コミュニティバス）
など

【10年後、次のライフステージに進んだときにどのようなまちに住みたいか】

- ・知名度が高いまち
- ・交通の便が良いまち
- ・安全なまち（学校周辺、自転車利用）
- ・治安が良いまち
- ・雇用があるまち（若者、高齢の方、障がい者）
- ・子育てしながら働けるまち
- ・こどもの遊び場が多いまち
- ・高齢と若者が共生できるまち
- ・高齢でも安心して暮らせるまち（施設・移動）
- ・大きな病院があるまち

など

(2) 午後の討議内容

午前の討議内容を踏まえて、以下の4つのテーマで討議を実施しました。

- ①安心・安全に暮らせるコミュニティづくり
- ②子育てしやすい、子どもが育ちやすい環境づくり
- ③ ○○×しごと地域で働く環境づくり
- ④年をとってもいつまでも住み続けられるまちづくり
(各グループの☆付は、投票の結果、参加者の賛同が多かった案)

①安心・安全に暮らせるコミュニティづくり

【1班】

★防災のために、世代別に安心して情報を得られるルートを確認。近所で助け合える関係もつくる

⇒ 若者はSNS、高齢者は新聞・PRボードなど、情報を得られる多様な手段を確認する

○大和市の知名度を上げるため、富士山が見える視点のマップなどをつくりPRする

○事故のないまちにするため、飛び出し注意のキャラ看板の設置や、見通し・通学路の安全を確保する

○治安No.1のまちにするため、人気の店をまちの奥に配置し、回遊性を高めて商店街をにぎやかにし、街灯も設置する

○安心して、働きながら子育てできるまちにするため、母親同士が助け合える環境をつくる

○多世代のつながりを強化するため、コミセンに人をつなぐコーディネーターを設置し、子どもと高齢者の交流を活性化させる

【2班】

★ご近所コミュニティの充実のため、半官半民の新しいコミセンをつくる

⇒ 利用者や時間のある高齢者にコミセンの管理をお願いして、コミュニティの充実につなげる

○新米お父さんとお母さんのための子育て相談会を開催する

○ご近所コミュニティ充実のため、コミュニティセンターに勉強の資料やドリンクバーを設置するなど、学生が勉強する場所をつくる

○ご近所コミュニティ充実のため、夏休み中、ボランティアの大学生が不登校児童へ勉強を教える場をつくる

○ご近所コミュニティ充実のため、コミュニティセンターを知らない人へ、機能を伝え、小中学校とも連携して子どもにも周知

②子育てしやすい、子どもが育ちやすい環境づくり

【3班】

★コミバスを、色々な情報が得られる情報発信拠点にする

- ⇒ コミバス内に子育て情報などを掲示し、親が子育てを学べる場所として活用する
- コミュニティセンターで小学生向けのイベントを企画して、小学校にPRする
- コミュニティセンターの登録証を小学校でつくり、コミュニティバスの定期券として扱うなど、コミバスをもっと活用する
- 特定の子育ての悩みを抱える前のタイミング毎に、学べる機会を提供する
- 子どもが遊びに行きたくなる遊具のある公園の設置や屋内施設の充実など、遊び場の選択肢を増やす

【4班】

★子育て世帯に対し助成金や低家賃住宅の提供、市税の軽減など、集中した経済支援を行う

- ⇒ 事業仕分けのような仕組みをつくり、子育て支援を集中して行える財源を確保して、市税の軽減などを行う
- 子育てしながら働きやすくするため、大和市内の鉄道駅（4ヶ所くらい）に保育施設をつくる（鉄道事業者の協力を）
- 地域で学生からシニアまでが関わり、子育て（放課後の預かりや見守り）をサポートする仕組みづくりを！
- 子どもの見守りを自発的に実施
- 国際色豊かなことを良いイメージとしてアピールし、外国人との交流の場も増やす

【5班】

★ “〇〇”で有名な大和市ブランドをつくる

⇒ 「子育て」で有名な大和市」「大企業」で有名な大和市」「文化」で有名な大和市」など市のブランド化をはかることで、人が集まり、働く場所も増えていく

- 開業・起業に向けて市が金銭的な補助を行う
- 介護職等に必要とされる資格や技術を学ぶため、資格取得のための金銭的なサポートや講習会を開催するなどの支援を行う
- 共働きを推進するために、勤務時間を自由にできる企業の誘致や在宅で働ける環境づくり
- 多様な世代の交流を通じ、世代を横断した助け合いを仕事（ビジネス）として行う

【6班】

★ 地域で働く環境を創出するために、魅力的な企業を誘致する

⇒ 税制優遇、交通利便性などをアピールし、若者にとって労働条件の良い企業を誘致する

- 市民参加型の高齢者の住まいづくり（世代間バトンリレー）
- 子育て世代が働きやすい多様な選択肢の提供（駅近くの託児所、夜対応保育園、在宅勤務など）
- 高齢者（障がい者）が生き生きと働けるために、専門性を活かした働き場をつくる
- 求人と募集のマッチングを制度として整える（情報交換の場の提供）

④年をとってもいつまでも住み続けられるまちづくり

【7班】

☆行きたい場所・時間帯に柔軟に対応できる公共交通の仕組みをつくる

- ⇒ ネットや電話で予約ができるバスなどをつくり、外出しやすいまちにする
- 世代を越えて知り合えるまちにするため、各世代が持っている得意分野を教え合う機会を作れる「一芸データバンク」等をつくる
- 老老介護を安心してできるまちにするため、公共医療機関の充実、専門家の紹介とともに、「世代」「地域」が違うボランティアの方との協力関係を築く
- 「歩く」ことが楽しいと思えるまちにしていいため、まちのバリアフリー化+「テーマ型」の身近な散歩コースをつくる！
- ひとり暮らしでも安心して暮らせるまちにするため、身近な知り合い、同志だけが知っている合図をつくる（仲間をつくることが大切！）

【8班】

☆健康寿命をのばせるように楽しく身体を動かす機会をつくる

- ⇒ マラソン大会に、「おいしいものが食べられる」「仲間と飲める」などの付加価値をつけて開催することで、高齢の方をはじめ幅広い世代の参加を促し、健康寿命の延伸につなげる
- 地域で支えあえる関係をつくるために、身近に集まれる場をつくる
- 集まれる場に気兼ねなく参加できるようにコーディネートしてくれる人（色々な情報を知っている人、お世話好きの人など）を配置する
- 年をとっても仕事ができる環境（ジョブコーチの設置など）をつくり、要介護を減らす

(参考) 当日の流れ

10:00～	開会
10:10～	概要説明
10:30～	グループワーク実施方法説明
10:40～	グループワーク（1～8班で実施） テーマ①：住みたいまちの条件を出し合おう テーマ②：例えば10年後、次のライフステージに進んだ時に どんなまちに住みたいかを語り合おう
11:50～	グループ成果の発表
12:20～	休憩
13:20～	午前中の討議の振り返り
13:30～	グループワーク（1～8班で実施） 1、2班 安心・安全に暮らせるコミュニティづくり 3、4班 子育てしやすい、子どもが育ちやすい環境づくり 5、6班 ○○×しごと地域で働く環境づくり 7、8班 年をとってもいつまでも住み続けられるまちづくり
15:30～	グループ成果の発表
15:55～	良いと思った提案に投票・講評
16:15～	閉会・アンケート記入等